

Taxonomic study of Japanese Scelioninae and Teleasinae (Hymenoptera, Platygastroidea, Scelionidae)

米田, 洋斗

<https://hdl.handle.net/2324/2236289>

出版情報：九州大学, 2018, 博士（農学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

氏名	米田 洋斗			
論文名	Taxonomic study of Japanese Scelioninae and Teleasinae (Hymenoptera, Platygastroidea, Scelionidae) (日本産タマゴクロバチ亜科及びトゲムネタマゴクロバチ亜科(膜翅目・タマゴクロバチ上科・タマゴクロバチ科)の分類学的研究)			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	広渡 俊哉
	副査	九州大学	准教授	紙谷 聡志
	副査	九州大学	教授	緒方 一夫

論文審査の結果の要旨

タマゴクロバチ科 Scelionidae は、南極区を除く全世界から 195 属 4,064 種が知られる寄生蜂の一群である。卵寄生蜂である本科は寄主が多様であり、これまでにトンボ目、バッタ目、シロアリモドキ目、カマキリ目、カメムシ目、コウチュウ目、チョウ目、ハエ目昆虫への寄生が確認されている。これらの寄主の中には、斑点米カメムシや果樹カメムシを中心とする様々な害虫が含まれており、本科は土着天敵として農地生態系で重要な地位を占めている。本科にはタマゴクロバチ亜科 Scelioninae、トゲムネタマゴクロバチ亜科 Teleasinae、ヒメタマゴクロバチ亜科 Telenominae の 3 亜科が含まれる。わが国において本科は 40 属 121 種が知られているが、このうちの 8 属は種同定を伴わない記録である。それ以外の属においても、本州と九州の数地点と国後島で得られたわずかな標本に基づく研究が行われたのみである。そこで本研究では、タマゴクロバチ亜科(一部の分類群を除く)と、トゲムネタマゴクロバチ亜科の Teleasini 族について、日本産本科の種多様性を解明することを目的として分類学的検討を行った。

研究材料として、南西諸島を中心に日本各地で行った野外調査で得られた標本と、九州大学農学部昆虫学教室、愛媛大学ミュージアム、名城大学農学部昆虫学教室、農研機構農業環境変動研究センター、北海道大学農学部昆虫体系学教室に収蔵された標本を用いた。さらにロシア科学アカデミー動物学研究所、ウクライナ国立学士院動物学研究所に収蔵された日本産を含む旧北区産種のタイプ標本を参照し、日本産の標本との比較検討を行った。

本研究の結果、タマゴクロバチ亜科では、これまで 32 属 75 種が知られていたが、これに加え 6 属 16 種の新記録分類群と、38 種の未記載種を確認した。さらに、いくつかの分類学的変更により、日本産本亜科は 38 属 112 種となった。Paridris 属はこれまで本州と九州から 3 種が知られていたが、新たに南西諸島から nephta 種群に属する 2 未記載種と 1 未記録種を確認した。Calotelea 属はこれまで 7 種が記録されていたが、再検討の結果 3 種の新結合名と 1 種の同物異名を確認し、さらに南西諸島より 3 未記載種を確認した。ヘリカメムシ類を寄主とする Gryon 属はこれまで 22 種が記録されていたが、3 種の新結合名、5 種の誤同定、5 種の同物異名、7 未記載種を確認し、日本産本属は 9 種群 16 種となった。日本産の各種群は postgenal pit と fossa の位置関係、occipital carina の形状、中胸楯板・小楯板の彫刻、小楯板の発達度合によって識別され、種群内の各種は後頭・後体節の彫刻によって識別できた。また、本属の 4 種群に属する 6 種がヘリカメムシ科・ホソヘリカメムシ科に属する 9 種のカメムシを寄主としていることが判明した。この他に、日本から新たに

Axea 属、*Dichoteleas* 属、*Embidobia* 属、*Oethecoctonus* 属、*Oxyteleia* 属、*Styloteleia* 属の 6 属を記録した。

トゲムネタマゴクロバチ亜科では、これまで 4 属 18 種が知られていたが、これに加え 1 属 3 種の新記録分類群と 7 種の未記載種を確認した。さらにいくつかの分類学的変更により、日本産本亜科は 4 属 25 種となった。*Teleasini* 族はこれまで 3 属 9 種が記録されていたが、本研究により 3 属 19 種を確認した。*Teleas* 属は日本産種の種同定が行われていなかったが、*Tel. strigatus*, *Tel. sulcatus*, *Tel. tridentatus* の 3 種を確認した。また、日本産の *Trisacantha* 属は *Ceratoteleas* 属に属する *C. cornus* sp. nov. の誤同定であった。*Trimorus* 属については、既知種のうち *Tri. fulviclavatus* Miyazaki のタイプ標本中に未記載種 (*Tri. rutundinaris* sp. nov.) が混入していたことが判明した。さらにこれ以外にも 5 未記載種を確認した。また、日本ではこれまで記録のなかった短翅型の種を 3 種確認した。

これらの再検討の結果、本研究で扱った 2 亜科を合計すると、日本から 7 属 19 種の新記録分類群と 45 種の未記載種を含む 42 属 137 種が確認され、日本産タマゴクロバチ科は 46 属 176 種となった。

以上要するに、本論文は日本産タマゴクロバチ科の種多様性を明らかにするとともに、生物的防除に利用できる寄主情報の解明を行っており、昆虫分類学ならびに応用昆虫学に寄与する優れた業績である。よって本論文は博士（農学）の学位に値すると認める。